

有機野菜で目指す先は、 日本の強い農業の確立

J Aバンク茨城では県内農業者・農業法人に対し、収益拡大に向けた様々な支援を行っています。

今回は、つくば市・常陸太田市で有機葉物野菜や有機いちごを生産している「株式会社ふしちゃん」の創業者かつ代表を務める伏田直弘氏と、常陸太田農場長田村 美桜氏に話を伺いました。

○有機野菜のトップランナーになるまで

当社は小松菜・ほうれん草・ロメインレタスといった葉物野菜やいちごを生産する、県内有数の有機野菜を専門とした農業法人だ。創業者である伏田氏は兵庫県出身。大学・大学院で農業経営学を学んだ後に、大手外食チェーンや金融業界にて農業に紐づく様々な職務を経験し、平成27年につくば市にて就農。経験を積みながら、有機葉物野菜の生産を拡大し、有機野菜のトップランナーと呼ばれるまで成長した。そんな当社は、6年前からは有機いちごの栽培、また2年前からは常陸太田市の中山間地域に新たな圃場を構えて生産を開始するなど、新しいチャレンジを進めている。



↑ 創業者かつ代表取締役を務める伏田直弘氏
様々なビジネスチャンスを探み、
現在では経営者として講習なども実施している



○有機いちごを経営の柱へ

有機いちご栽培のきっかけを伺ったところ、「主力商品の葉物野菜が安定してきたこともあって、今までやったことのない野菜を作ってみようかな、と思ったのがスタートでしたね。」と率直に語ってくれた。最初は夏野菜に目を付けたが上手くいかず、冬の品目はどうかと、目を付けたのが有機いちごだった。しかし、社内にはいちご生産の経験者が一人もおらず、まさに0からのスタート。試しに、と始めてみたいちごの生産は、失敗と挑戦の連続となった。生産開始から3年目までは実も上手くならず、周りの生産者や業者からは『もつとちゃんと作ったほうが良い』と言われたこともあった。

それでも諦めずに作り続けられたのは、当社で導入した『担い手コンサルティング』により「有機いちごが経営の柱になれる」と確証を得たことによるものだ。

当社が担い手コンサルティングを導入したのはいちご生産を開始して2年目の時。『有機いちごが自社の強みになれるのか判断したい』との思いを受け、国内でのいちご販売状況や有機いちごの生産・参入状況といったマーケット調査が行われた。「調査の結果、自分が有機いちごの栽培技術を確立できれば、主要マーケットになることが出来ることを確信した。やるしかないと思いました。」

ここから、有機いちごの生産に大きなギアが入った。



↑つくば農場でのいちご収穫風景（当社撮影）
手摘みで一つ一つ丁寧に収穫されている

↑当社が出している「すっぴんいちご」
ラッピングには当社キャラクターである
「すっぴん菜ちゃん」がデザインされている。



今年でいちごの生産開始から6年が経つ。当社の主力商品にまで駆け上がった有機いちごは、国内に留まらず、遠く離れたアメリカ・ロサンゼルスでも販売を実施。現在は輸出の拡大に向けて、鮮度保持技術の確立やビジネスマッチングといった取組が継続して行われている。

『ふしちゃんの有機いちご』が世界に広まるまで、まだまだ歩を進めていく。

○ 中山間地域から日本の農業を強くしたい

令和6年からは、つくば市から80km程離れた常陸太田市へ進出。しかしながら、元々耕作放棄地であったこともあり、こちらも試行錯誤と苦労の連続だった。最初はスタッフ全員で石拾いからスタート。土壌改良のうえ、なんとか令和7年より栽培を開始したものの、1ハウスで10kgしか収穫出来ない、水捌けが悪く根腐れが多発するといったトラブルに何度も苛まれた。現在は小さな課題を解決しながら、少しずつ安定的な生産が出来るようになってきているようだ。田村農場長は「まだまだ課題は山積みですが、少しずつ地域の特色が分かってきました。常陸太田市は周りが山に囲まれているので日が沈むのが早く感じますし、夜間の気温も低く、出てくる虫もつくばと全然違う。生態系の違いを感じるのも面白いです。」と話してくれた。

当社が今までの環境とは異なる中山間地域に飛び込んだのは、代表が考える「日本の農業の未来」を憂いてのことだった。「全国で中山間地域の耕作放棄地についてずっと問題提起されているが、未だ解決には至っていない。進出を機に自身のビジネスモデルである有機野菜の高付加価値農業が中山間地域でも成り立つことを証明したい。そして、このビジネスモデルを横展開することで、中山間地域と耕作放棄地の問題の解消に向けて一歩前進できると思っている。常陸太田農場を起点に、地域復興の足掛かりになりたい。」

○ 手を動かして、考えて、掴む未来

最後に、様々な取組に挑んでいく姿勢について聞いてみた。「農業は手を動かしてなんぼだと思っています。やってみなければ何も得られない。失敗しなければ感覚をつかめない。まずは手を動かして、考えるのはそれからですね。」

有機いちごも常陸太田農場も、どちらも当社にとって「未知の領域」であったことに間違いない。しかしながら、多くの失敗とトラブルに苛まれながらも、強い信念により新しいビジネスチャンスを生み出し続けている。目指すのは日本のものづくりを世界へ発信することだ。

これから、ふしちゃんファームの勢いは止まらない。



「田村農場長(田村農場)が、常陸太田農場の移転開始と共に常陸太田市に移住し、現在は常陸太田農場の管理・統括を任されている。」

↑ 収穫直前のロメインレタス。色・ツヤ共に鮮やかでとても美味しそう



株式会社 ふしちゃん
(ふしちゃんファーム)

〒300-2647
茨城県つくば市手子生2238番地
代表取締役 伏田 直弘
<https://organic-fusichan.net/>